

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-127-(2面)
- ・全開連東日本地区開拓牛枝肉共進会 (3面)
- ・「まちに歴史あり〜上志津原の開拓史」(千葉) (4面)
- ・炭酸ガス施用施設〜換気でナス収量増加(5面)
- ・今牧場「チーズとホエイの祭典」参加(栃木) (6面)
- ・農場拝見 井上さん(佐賀)・穂坂牧場(福岡) (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

# 開拓情報

発行所  
 公益社団法人全国開拓振興協会  
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10  
 TEL 03-6268-9995  
 FAX 03-6268-9996  
 ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>  
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

## 23年度 農水関係 補正予算8,182億円

### 食料安全保障・物価高騰対策強化

農水省は11月10日、23年度農林水産関係補正予算案を公表した。政府はこの予算案を今国会に提出し、早期成立を目指す。総額は8182億円で、前年の8206億円をやや下回る。

**食料安全保障の強化**については2113億円を、水田の畑作化による、麦や大豆などの国産化を促す。また、生産者の急減に備えた生産基盤の構造転換として、スマート農業技術の開発等を推進する。

物価高騰等の影響緩和対策に130億円など。

**①食料安全保障の強化**  
 水田の畑作化や畑地化後の一定期間の支援「畑地促進事業」に750億円。堆肥の高品質化、ペレット化に必要な施設整備のための「肥料の国産化・安定供給確保対策」に68億円。飼料の生産に必要な施設整備等のため「飼料自給率向上緊急対策」に130億円など。

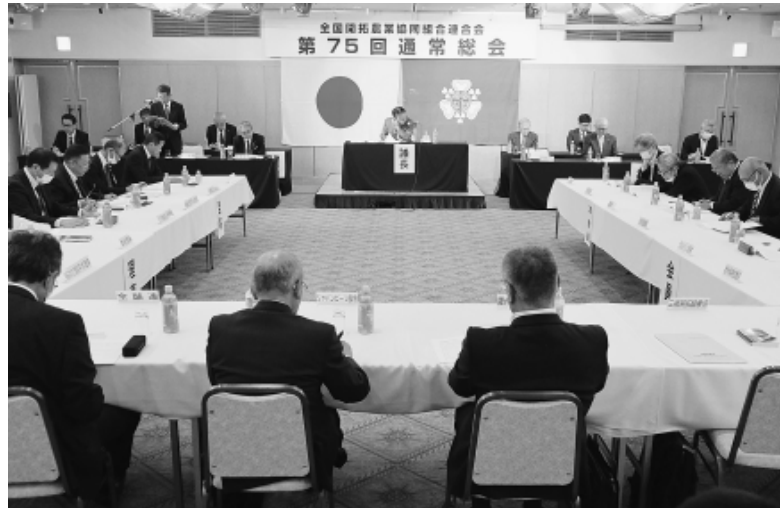
**②物価高騰等の影響緩和対策**  
 物価高騰等の影響を受けた農業者等が円滑な資金の融通を受けられるよう「金融支援策」100億円。物価高騰で需要が減退した和牛肉の需給改善を図るための「和牛肉需要拡大緊急対策」に50億円。

**③「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施**  
 輸出産地・事業者の育成・展開に「グローバル産地生産流通基盤強化緊急対策」に74億円。畜産

主要重点項目は下図。

### 23年度の農水関係補正予算の主な事項

・畑地化促進事業 水田の畑地化に一定額を助成	750億円
・肥料の国産化・安定供給確保対策 堆肥の高品質化、ペレット化等に必要な施設整備	68億円
・飼料自給率向上緊急対策 国産飼料の増産に必要な施設整備など	130億円
・担い手確保・経営強化支援事業 担い手への機械・施設導入等を支援	23億円
・金融支援対策 物価高騰等の影響を受けた農業者等の円滑な資金融通	100億円
・和牛肉需要拡大緊急対策 和牛肉の需給改善のため、新規需要開拓等を支援	50億円
・グローバル産地生産流通基盤強化緊急対策 輸出産地・事業者の育成・展開	74億円
・産地生産基盤パワーアップ事業 収益力強化に計画的に取り組む産地を総合的に支援	310億円
・畜産クラスター事業 畜産クラスターによる生産基盤の維持・強化	291億円
・優良繁殖雌牛更新加速化事業 高齢の雌牛から優れた若い繁殖雌牛への転換を支援	54億円
・国産チーズの競争力強化 酪農家の原料乳高品質化・コスト低減への取組など	61億円
・乳用牛長命産性向上緊急支援事業 長命産性の高い牛群への転換を支援	50億円
・脱脂粉乳の在庫低減・需要拡大 脱脂粉乳の在庫低減や需要拡大等を支援	40億円



## 全開連 第75回通常総会

### 人吉食肉センター復活で新たな出発



挨拶する新津会長

冒頭、新津<sup>フル</sup>庸<sup>ユキ</sup>会長が挨拶し、「20年7月の豪雨により球磨川が氾濫し、人吉食肉センター並びにゼンカイミート(株)が被災しました。それから3年余、各方面の協力を得て、ようやく先日、工場を再稼働することができました。これもひとえにご協力頂いた関係各位のおかげでございます。農業・畜産を取り巻く環境は、依然として大変厳しい状況にあります。全国の開拓の同志と組織が力を合わせこの難局を乗り越えていかなければなりません。」

本会は、会員・生産者から信頼される、魅力ある組織となるよう役員一丸となり努力してまいります」と表明した。

続いて、農水省畜産局長の挨拶に続き、第2号議案「76年度



平木理事退任挨拶

第23年度(22年8月1日から23年7月31日まで)事業報告、貸借対照表、損益計算書などを承認し、第76年度事業計画策定などの議案を原案どおり可決、決定した。

第75年度(22年8月1日から23年7月31日まで)事業報告、貸借対照表、損益計算書、策定などの議案を原案どおり可決、決定した。

次に、議長に三瓶開拓(22年度)事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、剰余金処分(案)及び附属明細書承認について「上程され、坏代監事の監査報告を受け、賛成多数で原案どおり承認した。」

設立から75年、全開連は開拓者を導いていく聖地だと思ふ。開拓精神は永遠です」と思いを述べ、満場の拍手で閉会した。

第23年度)事業計画設定について、第3号議案「76年度を初年度とする第12次中期3カ年計画設定について、第4号議案「76年度理事及び監事の報酬について」も賛成多数で原案どおり承認した。

最後に、今期で退任する平木理事が挨拶で、「13年間、様々な開拓者に出会い、苦労話を聞かせていただきました。苦しい今こそ、協同組合の理念・原点に戻って、時代は違えども、先人たちに負けないように開拓の同志が力を結集していつてほしい。」

設立から75年、全開連は開拓者を導いていく聖地だと思ふ。開拓精神は永遠です」と思いを述べ、満場の拍手で閉会した。

## BSE検査を改定

### 96ヵ月齢以上の死亡牛 全頭検査を廃止

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

農水省は、牛海綿状脳症(BSE)に関する特定家畜伝染病防疫指針等を一部改定する。

変更する点は、①これまで96ヵ月齢(8歳)以上は全ての死亡牛が検査対象になっていたが、改正後は廃止し、BSEを疑う症状を呈した牛を対象に検査する。②これまで48ヵ月齢以上の牛で起立不能で、かつ進行性の神経症状を呈する牛が検査対象となっていたが、今回の改定は、国際獣から適用される。

検査対象だったが、改正後は月齢を問わず、BSEを否定できない症状(犬座姿勢、異常歩様、非特異的な臨床症状がみられるもの)を呈する牛を検査対象とする。③特定症状(興奮しやすい、音・光に対する過敏な反応等の神経・行動異常)を呈する牛については変更なし。

変更点をまとめると、検査対象を月齢で区別せず、特定症状のあった牛に検査対象とする、ということになる。

また、OIEは13年5月に日本を、「無視できないBSEリスク」の国に認定している。この改定は、24年4月

検査対象だったが、改正後は月齢を問わず、BSEを否定できない症状(犬座姿勢、異常歩様、非特異的な臨床症状がみられるもの)を呈する牛を検査対象とする。③特定症状(興奮しやすい、音・光に対する過敏な反応等の神経・行動異常)を呈する牛については変更なし。

E発生状況は、2001年9月に初確認されたから、全部で36頭確認されている。01年10月に飼料規制が実施された直後の02年1月生まれた牛を最後に発生報告はない。

また、OIEは13年5月に日本を、「無視できないBSEリスク」の国に認定している。この改定は、24年4月

# 食料・農業 知っておきたい話

第127回

## 食料・農業危機の深刻化と迷走する政策ベクトル ②

東京大学教授 鈴木宣弘氏



なぜ自給率向上でなくコオロギなのか

「基本法」に「食料自給率向上」という文言が一度も出てこない一方で、昆虫食や人工肉の議論はさかんになってきている。さらに、グローバル種子農業企業やIT大手企業が目論んでいる、次の農業モデルの一つは、今の農業モデルの一つは、今の農家を追い出して、ドローンとセンサーを張り巡らせて自動制御して、儲かる農業モデルをつくらせて投資家に売るのだという見方もある。

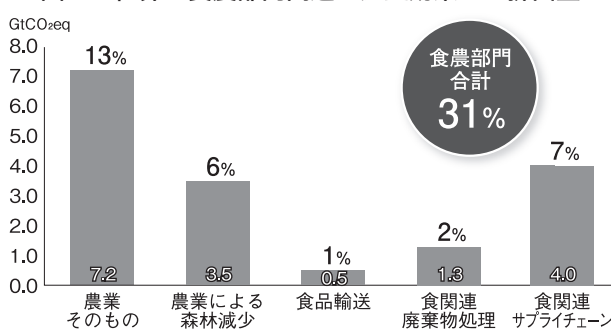
実際、ビル・ゲイツ氏は米国の農場を買い占めて、米国の農場主になっている。22年の世界食料サミットでこういう農業を広めていくためのキックオフにしようとしたという事実もあり、絵空事ではない。

「基本法」に「食料自給率向上」という文言が一度も出てこない一方で、昆虫食や培養肉や人工卵だけでなく、このような無人農場を考えている、と言つと、陰謀論だとい人がいる。しかし、日本が国策として推進しているフードテックというものの中身を見ると愕然とする。

## 主食用米の収穫量7万7千ト減 輸出用・WCS用稲の面積は増加

農水省は10月13日、23年産水稲の作付面積及び予想収穫量(9月25日現在)を公表した。それによると、作付面積(青刈り面積を含む)は153万1千ha(前年より1万4千ha減少)で、うち主食用作付面積は124万2千ha(同9千ha減少)と見込んでいる。9月25日現在における記録の高温や少雨の影響前年より増加した。

図1 世界の食農部門関連の温室効果ガス排出量



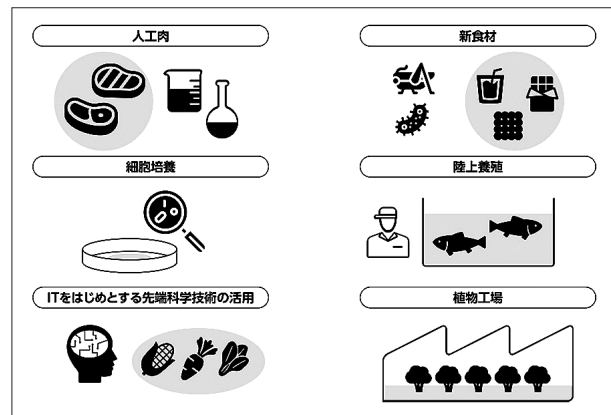
※パーセント表示は、人為起源の温室効果ガス排出量に対する割合。端数処理を四捨五入により行っており、総数と内訳の計が一致しない。 ※データは、2019年ベース。 出所：FAO "The share of agri-food systems in total greenhouse gas emissions Global, regional and country trends 1990-2019" FAOSTAT Analytical Brief 31を基に三菱総合研究所作成 https://www.fao.org/3/cb7514en/cb7514en.pdf (閲覧日：2022年11月18日) 注：https://www.mri.co.jp/knowledge/column/20221222.html から引用

水田の主食用米及び戦略作物等の作付状況 (万ha)

	主食用米	戦略作物等						戦略作物等合計面積		
		加工用米	新規需要米				麦			
			飼料用米	WCSホール	クロップサイレージ	米粉用米				
21年産	130.3	4.8	11.6	4.4	0.8	0.7	10.2	8.5	10.2	51.2
22年産	125.1	5.0	14.2	4.8	0.8	0.7	10.6	8.9	9.9	54.9
23年産	124.2	4.9	13.4	5.3	0.8	0.9	10.3	8.7	7.9	52.2

※その他は、飼料作物、そば、なたね (農水省の資料から)

図2 フードテックによって生み出された最先端のテクノロジー



資料：https://wisdom.nec.com/ja/article/2019112901/index.html

## 第2四半期5250円 配合飼料価格差補てん金

### 配合飼料価格差補てん金

(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金(以下、配合基金)は11月2日、23年度第2四半期(7月9日)に係る配合飼料価格差補てん金(通常価格差補てん金・緊急補てん金)を交付すると発表した(表)。前期と同様、畜産基金3・国の補助金2の割合でまかなう。原料価格の

23年度 第2四半期 配合飼料価格差補てん金交付単価

通常価格差補てん金単価	①	3,150円/ト
緊急補てん金交付単価	②	2,100円/ト
価格差補てん金交付単価	①+②	5,250円/ト

謀そのものなのである。

こんなことを続けたいら、IT大手企業らが構想しているような無人の巨大なデジタル農業がポツリと残ったとしても、日本の多くの農漁村地域が原野に戻り、地域社会と文化も消え、食料自給率はさらに低下する。不測の事態には、超過密化した東京などの拠点都市で、餓死者が出て、疫病が蔓延するような歪な国になることは必定である。命や環境を顧みないグローバル企業の目先の自己利益追求が食料・農業危機につながり、その解決策として提示されているフードテックが、環境への配慮を隠れ蓑に、さらに命や環境を蝕んで、次の企業利益追求にまい進していないか。早急な検証が必要である。

## 「消費者の低価格志向」続く 食肉販売動向調査 23年度下半期

消費者の低価格志向、「輸入鶏肉は「消費者の低価格志向」、「他畜種・品種との需要の代替」が多かった。

下半期の量販店における食肉販売量見通しについて、前年同期との比較では、国産鶏肉、輸入鶏肉で「増加」の割合が最も多かった。増加理由については、国産鶏肉は消費

## 開拓組織の動き

- 11月後半から12月に予定されている開拓組織の主な行事は次のとおり。
- 11月 全開連九州プロック参事会議(福岡)
- 22日 全開連九州開拓系 統女性職員研修会(熊本)
- 27日 福岡県畜産事協 肉共進会
- 30日 宮崎県乳肥農協 常総会
- 1日 佐賀県開拓畜産事協 協開拓びより牛・開拓豚枝肉共進会
- 11日 開拓ながさき農協 畜産共進会
- 12日 全開連第22回臨時 総会・理事会
- 13日 全日本開拓者連盟 中央常任委員会

# 沢田氏(青森)が最優秀賞

## 東日本地区開拓牛枝肉共進会

全開連は10月31日から 査が行われ、最優秀賞11月2日にかけて、東京 点、優秀賞2点が選ばれ食肉市場で23年度東日本地区開拓牛枝肉共進会をの沢田義彰氏の出品牛に決定。沢田氏は、ゆうき青森農協共助会に続き2冠となった(次項)。

最終日に枝肉格付・審査 最優秀賞牛は生後26ヵ月齢の雌で、種雄牛は「百合光」。枝肉重量600kg、ロース芯面積64cm<sup>2</sup>、バラ厚9.5cm、BMS No.6、格付B4、歩留基準値71.9だった。

審査講評で「枝肉は肉付き均称の非常に優れた仕上がりで、脂肪質が良く、肉の色・光沢が素晴らしい枝肉」と高く評価された。

全体の成績は、平均枝肉重量が561.9kg(去勢584.4kg、雌540.5kg)、肉質3等級以上比率83.3%。各測定値の平均は、ロース芯面積74.2cm<sup>2</sup>、バラ厚8.4cm、BMS No.8.6、歩留基準値76.2だった。

入賞牛の出品者は次のとおり。



最優秀賞を受賞した沢田さんの枝肉

【交雑種の部】  
最優秀賞 沢田義彰(青森)  
優秀賞1席 沢田義彰(青森)  
優秀賞2席 中村亨(埼玉)

# 交雑種沢田氏、和牛鎌本氏

## ゆうき青森農協枝肉共助会

ゆうき青森農協は10月20日、東京食肉市場で23年度枝肉共助会を開催した。今年、交雑種の部が12頭(去勢5頭、雌7頭)、黒毛和種の部も12頭(去勢6頭、雌6頭)出品された。

交雑種の部最優秀賞は、鎌本進氏の出品牛の雌で、生後26ヵ月齢、雄牛「北美津久」、枝肉重量591kg、ロース芯面積76cm<sup>2</sup>、バラ厚7.9cm、BMS No.9、格付A5、歩留基準値72.2だった。

交雑種の部全体の成績は、平均枝肉重量が569.3kg(去勢604.9kg、雌540.5kg)、肉質3等級以上比率83.3%。各測定値の平均は、ロース芯面積74.2cm<sup>2</sup>、バラ厚8.4cm、BMS No.8.6、歩留基準値76.2だった。

入賞牛の出品者は次のとおり。

【交雑種の部】  
最優秀賞 沢田義彰(青森)  
優秀賞 坂田弘志(青森)  
優良賞 枋木政則(青森)  
【黒毛和種の部】  
最優秀賞 鎌本進(青森)  
優秀賞 柳金子ファーム(青森)  
優良賞 西野福寿(青森)

# 未経産盛農高、経産鈴木氏

## 岩手花平B&Wシヨー

岩手花平農協と花平ホルスタイン改良同志会による乳牛共進会「23年度花平B&Wシヨー」が10月21日、同農協構内で開催された。

出品は未経産牛4部門に19頭、経産牛2部門に12頭の計31頭。



がんばったで賞の齋藤琴美ちゃん(5歳)

# 交雑種黒岩氏、和牛長谷部牧

## 宮崎県乳肥農協枝肉共進会

宮崎県乳用牛肥育事業農協は10月23日、宮崎ビルセンター(株)(延岡市)で第35回枝肉共進会を開催した。

交雑種部門19頭(去勢14頭、雌5頭)、和牛部門11頭(全て去勢)がそれぞれ出品された。



和牛の部最優秀賞 長谷部将一さん

交雑種部門全体の成績は、平均枝肉重量が541.8kg(去勢541.5kg、雌542.5kg)、肉質3等級以上比率84.2%、4等級以上比率47.4%。各測定値の平均は、ロース芯面積54.9cm<sup>2</sup>、バラ厚8.1cm、BMS No.4.4、歩留基準値70.0だった。

また、正肉歩留りが良好な(株)藤原牧場の出品牛が特別賞となった。

和牛部門の最優秀賞は、(株)長谷部牧場の出品牛で、生後28ヵ月齢、父「紀多福」・母の父「安福久」・祖母の父「忠富士」、枝肉重量590.7kg、ロース芯面積70.2cm<sup>2</sup>、バラ厚9.0cm、BMS No.10.0、歩留基準値75.2だった。

入賞牛の出品者は次のとおり。

【交雑種部門】  
最優秀賞 黒岩優(宮崎)  
優秀賞 平岡伸夫(宮崎)  
優良賞1 (株)重富畜産(宮崎)  
優良賞2 平岡伸夫(宮崎)

【和牛部門】  
最優秀賞 (株)長谷部牧場(宮崎)  
優秀賞 (株)長谷部牧場(宮崎)  
優良賞 (株)長谷部牧場(宮崎)

全開連人事  
(10月31日付)  
退職 光澤直美(西日本支所)  
推進部長 小宇都良則(宮崎)  
管理部長(管理部長) 村上(宮崎)  
推進部長(管理部長) 村上(宮崎)  
推進部長(管理部長) 村上(宮崎)  
推進部長(管理部長) 村上(宮崎)

# 開拓地からニュータウンへ

## 千葉県印西市・船穂開拓



千葉県印西市草深の船穂開拓は、千葉県の北部で、利根川の南の下総台地にあった。戦時中はパイロット養成用の印旛飛行場があったが、戦況が悪化すると陸軍航空基地と共用となり、多くの若者がここから戦地に赴いて行った。

戦後、この飛行場跡が船穂開拓となり、百名余の船穂開拓団が入植してきて、250戸以上を開墾した。しかし、土壌は悪く、肥料も手に入らないので、作物は思うように育たなかった。

初めは陸稲、麦、サツマ芋、ソバなどを作っていたが、自給的なものにならなかつた。地元農家からは「飛行場の盆」と笑われた。

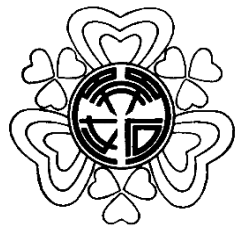
1948年に船穂開拓農協を設立し、64年に地元印西農協に加盟するまで行ったかんがい用水工事などにより、次第に収穫が上がるように

戦後、この飛行場跡が船穂開拓となり、百名余の船穂開拓団が入植してきて、250戸以上を開墾した。しかし、土壌は悪く、肥料も手に入らないので、作物は思うように育たなかった。

初めは陸稲、麦、サツマ芋、ソバなどを作っていたが、自給的なものにならなかつた。地元農家からは「飛行場の盆」と笑われた。

1948年に船穂開拓農協を設立し、64年に地元印西農協に加盟するまで行ったかんがい用水工事などにより、次第に収穫が上がるように

現在、草深地区を訪ねてみると、100〜200mほどの畑が、団地の間に点在していた。



『まことに歴史あり』

上志津原の開拓史

佐倉市の広報番組で紹介

千葉県佐倉市の広報番組「まことに歴史あり」が放送された。現在もYouTubeで見ることが出来る。番組の内容を紹介する。



まことに歴史あり～上志津原の開拓史～(2023/8/30) 佐倉市

千葉県佐倉市の広報番組「まことに歴史あり」が放送された。現在もYouTubeで見ることが出来る。番組の内容を紹介する。



まことに歴史あり～上志津原の開拓史～(2023/8/30) 佐倉市

初めは家もなくて生える竹(ぐらいたつた)と聞いております。肥料もありませんし、食料も乏しく、最初の2年ほどはお寺などに身を置きました。

「入植してかことやってました、開拓です。他に田んぼもいなくて、兵舎を建てたので、7坪ぐらいいの家ができたところから、疎開していった母と長女を呼んで暮らし始めた」と聞いております。



まことに歴史あり～上志津原の開拓史～(2023/8/30) 佐倉市

萩庭一彦町会長 提供: 3枚とも佐倉市 聞いた記憶があります。「ワラビだとかゼンマイだとかね、この辺の防風林に生えてたんですよ。天然物です。それを採りに行ってね。ハツタケとか採って、拓の人たちが核になった」

「米粉を使ったメニューフェア」開催

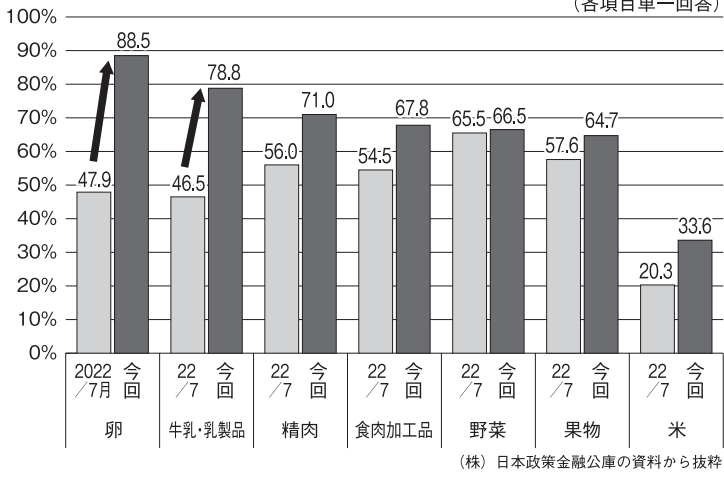
米粉消費の拡大促す

お米の消費は減少傾向にあり、消費の維持・拡大が望まれている。「米粉」はお米を細かく砕いて粉状にしたもの



さらなる米粉消費の拡大を目指す、農水省は「米粉を使ったメニューフェア」を開催して、米粉を使用した料理が食卓に上がり、消費拡大が進むことを期待している。

食品の値上げに対する意識



食の経済性志向

10年以來13年ぶり40%超

「健康志向」「健康志向」が3大志向だが、経済性志向は42.5% (前回調査比4.2%増)と、リーマンショック後の不況で消費者の節約志向が高まった10年以來13年ぶりに40%を

「健康志向」が3大志向だが、経済性志向は42.5% (前回調査比4.2%増)と、リーマンショック後の不況で消費者の節約志向が高まった10年以來13年ぶりに40%を

Table showing the percentage of households purchasing fruits for home use in the last year, categorized by age group and fruit type.

「健康志向」「健康志向」が3大志向だが、経済性志向は42.5% (前回調査比4.2%増)と、リーマンショック後の不況で消費者の節約志向が高まった10年以來13年ぶりに40%を

# 炭酸ガス施用施設ナス栽培で収量増加 施用前に側窓開放後換気で



試験中のナスの様子

植物は水と光と炭酸ガス(二酸化炭素)で光合成を行い、成長する。施設栽培では、植物の光合成を促す炭酸ガスを発生させる装置を導入する農家が増えており、ナスやピーマンなど多くの作物で増収を実現している。

密閉されたハウス内は二酸化炭素が不足がちになるため、濃度を人工的に高め、作物の収量を上げようというのが炭酸ガス施用技術の狙いである。

しかし、施設ナス栽培では、果実収量や品質を確保するためには、最高気温を30℃以下にするのが望ましいとされている。ハウスを密閉状態にすると、冬季でも晴天時には30℃以上となるため換気が必須である。「ハウス内の炭酸ガス濃度は高濃度に保ちたいが、気温上昇を抑えるために換気をしなくて

はならない」というのが、施設ナス栽培での炭酸ガス施用の課題である。

岡山県農林水産総合センター農業研究所野菜・花研究室(赤磐市)は、施設ナス栽培で、炭酸ガス施用時に先に側窓を開放し、後から換気扇を稼働させることで、商品果および秀品果収量を増加させることができることを明らかにした。

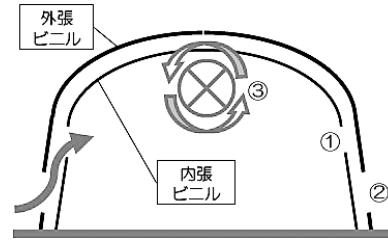
### 〈試験方法〉

試験は20年11月~21年6月と21年11月~22年6月に、同所内のビニルハウス(間口6m、奥行き23m、二重被覆)2棟で行った。側窓優先区、換気扇区の各1棟とし、20年度と21年度でハウスを入れ替えた。

ナスの供試品種は、穂木に「千両」、台木に「台太郎」を用いた。栽植は、側窓優先区、換気扇区ともに、畝間170cm(各ハウス3畝設置)、株間60cmとした。なお、60cmという株間は一般の栽培より狭いが、同所のこれまでの試験で炭酸ガス施用条件下では栽植密度を高めることで収量が上がるという結果が出ているため、60cmとした。

炭酸ガスの施用は、燃焼式炭酸ガス

図 側窓優先換気ハウス



施用機を用いて行った。炭酸ガス施用開始濃度は、側窓優先区の場合、側窓全閉時には800ppm、一部でも開放しているときは400ppmとした(表1)。換気扇区(換気扇のみでの換気)は、炭酸ガス濃度低減温度(換気扇の稼働開始温度より約2℃低く設定)を設定し、低減温度以下では800ppm、低減温度以上では400ppmとし、換気扇が稼働している間は施用しなかった。

側窓優先区は、朝、炭酸ガスを800ppmで施用開始後、以下のように管理する(図)。

- ①22℃で内張りの肩を開ける。
- ②26~29℃で外張りの腰を開けて、炭酸ガスを400ppmで施用する。
- ③29~32℃になったら換気扇を回し、炭酸ガスを停止する。

なお、この試験では複合環境制御装置および内張りと外張りの側窓自動閉装置を用いている。これらによって、ハウス内の気温、日射量、炭酸ガス濃度、側窓の開度を自動計測し、側窓の

開閉、換気扇の稼働、炭酸ガス施用装置の稼働を自動制御している。本技術を導入するには、このような装置も必要となる。

### 〈結果〉

試験を行った2ヵ年とも、側窓優先区において、11月下旬~12月下旬と1月上旬~3月下旬の全収獲果、商品果と秀品果の収量が換気扇区と同等あるいはそれ以上という結果になった(表2)。また、通期(11月下旬~6月中旬)の商品果と秀品果の収量も増加した。なお、側窓優先区では、換気扇区よりハウス内の温度、ナスの葉温度が高く維持できていた。

キュウリでは炭酸ガス施用時の相対湿度を74.5%から86%に高めることで、葉面積、株の全乾物重、相対成長率が高まることが報告されている。同研究室は、ナスでも同様に湿度を高めることで生育が促進されたと推察している。また、ナスの光合成速度は、20~30℃の範囲では気温が高いほど増加することが報告されており、葉温が高いほど光合成速度が高まると考えられるとしている。

同研究室は、本技術の導入により、単価の高い秀品果収量が増加することによって所得の向上が期待できるとしている。

## 金融・税制などの支援措置を逆引きで みどり戦略施策活用ガイドブック

生産から消費までの一連の取り組みで環境負荷の低減を目指す、「みどりの食料システム法」が昨年制定された。みどりの食料システムの実現には、同法で提唱する基本方針に沿ってすべての関係者が調達から生産、加工・流通の各段階で環境負荷の低減に取り組む必要がある。

農水省は、みどりの食料システム戦略の推進に向けて、「みどり戦略施策活用ガイドブック」を作成、公開している。24年度予算概算要求の内容を踏まえた関連予算や金融、税

制など農業者などが活用できる支援措置がまとめられている。

同ガイドブックは、「調達」「生産」「加工・流通」「消費」の4つの分野から構成され、農業者や各分野の事業者が取り組みたい内容からさかのぼって支援措置を探すことができる。巻末には、みどり認定を受けることで優遇される補助金についても掲載されているため、活用できるものがないかチェックしたい。同資料は「みどり戦略施策活用ガイドブック」と検索し、農水省HPから閲覧することができる。

表1 側窓優先区及び換気扇区の換気及び炭酸ガス施用の設定条件(2021年度)

換気方法 <sup>※</sup>	設定項目	設定温度(℃)										(参考) 炭酸ガス施用濃度
		11/20 12/10	12/11 12/20	12/21 1/4	1/5 1/28	1/29 2/17	2/18 2/27	2/28 3/15	3/16 3/23	3/24 4/18	4/19 5/16 <sup>▽</sup>	
側窓優先	側窓開放開始温度(A)	27.5	28.0	29.0	27.5	28.5	27.5	27.5	28.5	27.0	26.0	A未滿: 800ppm A~B: 400ppm B以上: 400ppm (3/30~施用停止)
	換気扇稼働開始温度(B)	29.5	30.0	31.0	31.0	31.0	31.0	32.0	30.0	29.0		
換気扇	炭酸ガス濃度低減温度(C)	27.5	28.0	27.0	25.5	26.5	25.5	26.5	27.5	26.0	25.0	C未滿: 800ppm C~D: 400ppm D以上: 施用停止
	換気扇稼働開始温度(D)	29.5	29.0	29.0	27.5	28.5	27.5	28.5	29.5	28.0	27.0 <sup>*</sup>	

<sup>※</sup>いずれの換気方法でも、内張りの肩を22℃で開閉した <sup>▽</sup>炭酸ガス施用は11月20日~5月16日に行った <sup>\*</sup>換気扇だけは高温となるため、手動側窓換気を併用

表2 炭酸ガス施用条件下における換気方法が収獲果実収量に及ぼす影響(2020~2021年度)

試験年度	換気方法	収獲果実重(kg/m <sup>2</sup> )											
		11/21~12/31			1/1~3/31			4/1~6/17			通期		
		全	商品 <sup>△</sup>	秀品 <sup>▽</sup>	全	商品	秀品	全	商品	秀品	全	商品	秀品
2020	側窓優先	2.7	2.5	1.3	6.9	6.7	4.0	9.6	8.3	3.7	19.3	17.5	8.9
	換気扇	2.6	2.4	1.1	6.9	6.5	3.5	10.1	8.5	3.4	19.6	17.4	8.0
2021	側窓優先	2.2	2.1	1.1	7.5	7.2	4.3	11.9	10.4	2.4	21.7	19.7	7.8
	換気扇	2.1	2.0	0.9	7.5	7.2	3.9	11.1	9.6	1.8	20.7	18.8	6.7
平均	側窓優先	2.4	2.3	1.2	7.2	6.9	4.1	10.8	9.3	3.0	20.5	18.6	8.4
	換気扇	2.3	2.2	1.0	7.2	6.9	3.7	10.6	9.0	2.6	20.1	18.1	7.3

<sup>△</sup>全収獲果から、褐変のある日焼け果、その他の不良果(曲がり、肥大不良、つやなし等)を除いたもの <sup>▽</sup>商品果から、陥没のある日焼け果、形状不良果、がく青果を除いたもの

写真・図・表は岡山県農林水産総合センターの資料から

## 果樹・茶の全品目で減少 23年 栽培面積の調査から



農水省は10月20日、「23年果樹及び茶栽培面積(7月15日現在)」を公表した。果樹・茶ともに高齢化による労力不足に伴う廃園などで、全品目(16品目)で栽培面積が減少した。

### 【果樹】

調査を行った15品目のうち、全品目で栽培面積が減少した。

#### ・ミカン

前年より800ha(2%)減の3万7300

ha。主産県別にみると、和歌山県が90ha減の7110ha、愛媛県が140ha減の5290ha、静岡県が80ha減の5210haとなっている。

#### ・リンゴ

前年より400ha(1%)減の3万5900ha。主産県別にみると、青森県が100ha減の2万200ha、長野県が190ha減の6930ha、岩手県が50ha減の2280haだった。

23年果樹・茶栽培面積

区分	栽培面積	前年との比較		区分	栽培面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比
	ha	ha	%		ha	ha	%
ミカン	37,300	△800	98	スモモ	2,740	△70	98
その他カンキツ類	23,600	△400	98	オウトウ	4,430	△110	98
リンゴ	35,900	△400	99	ウメ	13,900	△300	98
日本ナシ	10,100	△300	97	ブドウ	17,600	△100	99
西洋ナシ	1,400	△40	97	クリ	16,200	△600	96
カキ	17,900	△400	98	パインアップル	592	△6	99
ビワ	862	△65	93	キウイフルーツ	2,020	△10	100
モモ	9,950	△40	100	茶	36,000	△900	98

農水省の資料から作成

#### ・ブドウ

前年より100ha(1%)減の1万7600ha。主産県別にみると、山梨県が増減なしの4050ha、長野県が90ha増の2780ha、山形県が50ha減の1460haとなった。

#### 【茶】

前年より900ha(2%)減の3万6000ha。主産県別にみると、静岡県が500ha減の1万3300ha、鹿児島県が110ha減の8140ha、三重県が増減なしの2590haなどとなった。

## 栃木今牧場「チーズとホエイの祭典」に参加 ホエイの消費喚起促進に

チーズを作る時に出る「ホエイ」は現在ほとんどが廃棄されている。栃木県内の有志で構成する「チーズとホエイの祭典実行委員会」が、10月28～29日に「チーズとホエイの祭典」を那須町で開催。ホエイを使った料理の販売などを行った。

戦後開拓酪農家である(有)那須高原今牧場チーズ工房も出店。ホエイの有効活用をアピールした。

那須地域では、ホエイを有効活用するため、ホエイを使ったお菓子づくりや、パンの原料にするなどの取り組みを行っている。祭典では那須地域のホエイを使った料理以外にも、全国から集まった人気のチーズ工房の



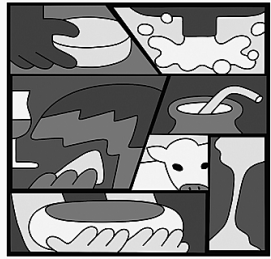
イベントで出店している今牧場  
写真提供：(有)那須高原今牧場

チーズや、ホエイやチーズを使った料理を味わえるほか、ホエイを使ったりコッタチーズ作りも体験できる2日間となった。

今牧場では水分ホエイが豊富なチーズづくりにも取り組んでいることから、そうした製品を消費者に紹介した。会場は大勢の来場者で賑わい、訪れた人々はホエイを使った料理などを楽しんだ。

チーズとホエイの新たな可能性を広げるために活動する開拓酪農家の今後の活躍が楽しみだ。

### チーズとホエイの祭典



Cheese and Whey Festival

## 飼料用ダイズのリビングマルチ イタリアンライグラスで

飼料を安定的に利用するには、国産飼料の安定的な確保が重要となる。神奈川県畜産技術センターは飼料用ダイズのリビングマルチとしてイタリアンライグラスを用いる実証試験を行った。

### ◆ダイズとの相性を確認

リビングマルチ（地表を覆うようにして栽培する、雑草抑制のための植物）に用いたイタリアンライグラスは、早生、中生、中晩生、晩生の4品種で、いずれも前年11月に播種し、4～5月



収穫の様子

神奈川県畜産技術センターの資料から

に収穫後、ダイズを条間37.5cm、株間14cmで不耕起播種した。

### ◆早生・中生品種がリビングマルチに有効

ダイズの乾物収量は、晩生のイタリアンライグラスリビングマルチで最も少なくなった。早生・中生品種がダイズとの二毛作に最も適しているとみられた。ダイズサイレージの粗たんぱく質(CP)含有量は一般的なアルファルファの含有率には及ばなかったが、発酵品質は4品種ともに「良」の評価だった。

以上のことから、飼料用ダイズのリビングマルチには、短期利用型の耐倒伏性に優れた品種が適しているとみられた。飼料用ダイズ・イタリアンライグラスとも牛に給与できるため、リビングマルチとしてイタリアンライグラスを活用したい。

## チェックリストの活用を 養豚アニマルウェルフェアの新たな指針



農水省は10月26日、「アニマルウェルフェアに関する新たな国の指針について～豚～」と題し、説明会を開いた。これまで指針の作成やその運用が民間の団体に一任されていたアニマルウェルフェアについて、日本のアニマルウェルフェアが国際水準の取り組みとなるよう、国が新たな指針を示すことになったため、その概要を説明した。

### ◇チェックリストを活用

指針には管理方法・栄養・豚舎・飼養方式、構造及び飼養空間・豚舎の環境・アニマルウェルフェアの状態確認

等・豚のアニマルウェルフェアの測定指標の7つの大項目がある。また、チェックリストで日々取り組むべき事項が示されており、畜舎をチェックして確認することができる。

アニマルウェルフェアのポイントは、家畜の快適性に配慮した飼養管理を生産者が実行することであるため、リストを活用して日々の飼養管理を工夫したい。

チェックリストは、農水省ホームページから「豚チェックリスト」で検索。

## クマの食害防いで粗飼料栽培 スーダン型ソルガムで

全国各地でクマの出没が相次いでおり、被害が過去最悪となっている。クマの襲来を防ぎ、飼料の食害や人や牛への被害を防止するため、栃木県農政部経営技術課は、被害が多発しているデントコーンの代替作物としてスーダン型ソルガム（子実型ソルガム×スーダングラスの単交配一代交雑種で、再生力が旺盛）を栽培する実証を行った。

### ●方法

供試区はスーダン型ソルガム「涼風」、対照区はデントコーンを、それぞれ25 a栽培した。

### ●結果

スーダン型ソルガムは2番草まで収穫予定だったが、台風などの影響で1番草の収穫が遅れたため、再生草の収穫はできなかった。両区でクマの姿が



スーダン型ソルガムのサイレージを食べる牛の様子

### 涼風分析結果

項目	分析値	(参考)デントコーン
水分 (%)	70.0	72.8
粗たんぱく質 (%)	10.1	8.5
TDN (%)	48.0	67.9
NDF (%)	69.5	48.9
硝酸態窒素 (%)	0.06	—
乳酸 (%)	2.2	—
酪酸 (%)	0	—
Vスコア (点)	89.1	—

表・写真ともに栃木県農政部経営技術課の資料から

赤外線カメラで確認されており、被害は、スーダン型ソルガムは被害率・面積ともにゼロ。デントコーンは21%で5.24 aの被害だった。

スーダン型ソルガムの飼料成分・発酵品質はともに府県平均値と同程度だった(表)。また、乳牛の嗜好性もよく、自ら好んで摂取していた(写真)。以上のことから、クマの食害でデントコーンの作付けが困難な地域では、転

換作物としてスーダン型ソルガムが有効であることがうかがえた。実証ではTDN収量はデントコーンの方が高かったが、2番草まで収穫できれば、デントコーンと同等のTDN収量が見込める。

多発するクマの食害対策と飼料確保の手段として、有効活用したい。

## 応援メッセージ動画公開 酪農家からの訴えや体験活動も

牛乳の値上げにより、消費の低迷が危惧されている。そこで、(一社)中央酪農会議は、牛乳の消費喚起のため、10月16日からYouTubeで

「酪農家メッセージ動画」と「酪農体験動画」を配信している。

アイドルグループの「高嶺のなでしこ」が応援アンバサダーを務める。

「酪農体験動画」は、搾乳や子牛へのミルク給与の体験を通じ、酪農家への共感を深める内容となっている。

「酪農メッセージ動画」は、飼料高騰などに苦しむ酪農家からの切実な思いをメッセージ動画として配信している。



酪農家メッセージ動画

(一社)中央酪農会議の資料から



# 佐賀県鹿島市 七浦第一開拓 井上富男さん・貴好さん



佐賀県西南部に位置する鹿島市七浦第一開拓地は、標高300mで気候は温暖だが冬季は北西風が強く、夏は台風の通路といわれ雨量が多い地域である。

同開拓地では、多品種の作物を栽培し共同出荷していた。その後、干ばつの影響を受けたこともあり、入植者全員がミカン栽培に取り組んだ。しかし、ミカンの生産過剰で価格が低迷したことから、現在ではミカン専業と畜産専



左：富男さん 右：貴好さん

業に分かれて営農している。そのことから、初代から大事に牧場を受け継ぐ開拓農家、井上さんを紹介する。

56(昭和31)年に初代の井上福義さんが入植し、芋・カンショとミカンを栽培。75年に現在の経営主である富男さん(佐賀県開拓畜産事協代表理事、70歳)が、03年には長男の貴好

さん(40歳)が就農した。牧場は、富男さん夫妻、貴好さんとその妹さんの計4名で管理している。

始めは乳用種肥育牛を飼養していたが、交雑種、黒毛和種へと飼養品種を変更するとともに繁殖牛を増頭していった。現在は、黒毛和種肥育牛を180頭、繁殖牛を63頭、子牛を42頭の計285頭を飼養している。徹底した飼養管理により、枝肉成績は、去勢・メスともに良好で安定している。また出荷月齢も比較的早く、肥育期間の短縮にもつながっている。

副産物として堆肥の生産も行っており、佐賀県内のタマネギ・アスパラガス・トマト・キュウリ・ミカンの生産農家に出荷している。利益のためだけでなく、発生するふん尿の処分のために良い堆肥を作ることを心がけており、県内の畑作農家への営業活動に努めているそうだ。

飼養している牛を見ると、首に箱型の機械が巻き付けられていた。質問す



首にはセンサーが装着されていた

ると、首にセンサーを装着することで行動をモニタリングしているそうだ。システム導入前は、起立困難による死亡牛が発生していたが、機械の装着によって、事故を未然に防ぐことができたようになったという。使用料を月額数万円払う必要があるが、死亡牛の発生によるロスを考えてと安く済むとのこと。ちなみに、同センサーを佐賀県内で導入したのは井上さんが初めてだそうだ。

今後は、人工授精師免許を取得するとともに繁殖牛の増頭を図り、一貫経営の確立を目指したいという。肥育牛を200頭、繁殖牛100頭、子牛70頭の計370頭を将来の目標としており、今後さらなる規模拡大が期待される。



福岡県飯塚市北部で肥育経営を行う、農事組合法人穂坂牧場を訪れた。

68(昭和43)年、初代の穂坂恵之輔さんが八木山開拓地へ入植し、開拓牛(乳用種)27頭の肥育経営を開始した。05年に貴彦さん(44歳)が代表理事に



# 福岡県飯塚市 (農)穂坂牧場 穂坂貴彦さん

就任し、代表者として本格的に事業経営に参画した。現在は、貴彦さん夫妻と6名の従業員で交雑種800頭の肥育と堆肥生産などを行っている。

貴彦さんは交雑種へ品種を変更し、発酵飼料などを給与した肥育牛の出荷を開始した。発酵飼料(エコフィード)を給与することで、枝肉成績の向上につながっている。肥育日数を短縮しつつも肥育成績は年々向上しており、安定した経営を実現している。

枝肉成績、事故率、疾病予防といった経営に直結する飼養管理は、PDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを基に改善を図っており、その対応の早さには定評を得ている。

同牧場は肥育事業を主体としているが、食品副産物をサイレージ化した発酵飼料を販売している。素牛の導入は、市場導入を行わず特定農場から直接導入

している。さらに、提携する生産農場に同牧場で給与する発酵飼料を購入、給餌してもらうことで素牛のストレス緩和と一貫生産体制を実現している。

生産された牛肉は、特定の販売先に相対取り引きを行っており、赤身のうま味成分を特長としている。また、飯塚市のふるさと納税の返礼品に登録されているほか、注文があれば販売した肉を買い戻してパック単位で販売することで、消費者と直接つながることができている。

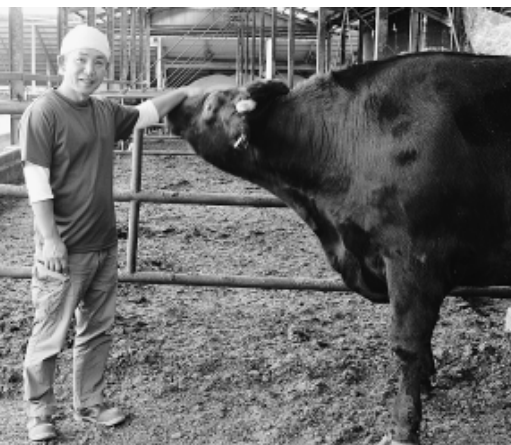
敷料には基本的にバークを使用し、堆肥化では水分調整と切り返しを念入



消毒液散布には果樹園用のスピードスプレーヤーを用いる

りに行っている。生産された堆肥は袋詰めやバラ売りで、ホームセンターや公共工事用などに販売。一部は近隣の稲作農家と稲わらと交換しているほか、再生堆肥として敷料への再利用もしている。

今後は、「穂坂牧場牛」などプライベートブランド化のために商標登録などすることで、差別化を目指すという。



交雑牛と立つ貴彦さん

## 交雑種で発動続く 牛マルキン9月分

農畜産業振興機構は、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(23年9月分、確定値)を公表した。

交雑種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。肉専用種は42都道府県で発動した。乳

用種は素畜費が5万円ほど下がったため、7年ぶりに発動しなかった。

交付金単価(1頭当たり)は、交雑種が4万5247円(前月は5万6643.3円、確定値)となっている。

前月分と比べると、交雑種は生産費が増加したが、販売価格が上昇したため交付金は減額。乳用種は素畜費が減少し、販売価格が上昇したため交付はなかった。

## 乳用牛への黒毛和種交配41.2%に減少 性選別利用割合は増加続く

(一社)日本家畜人工授精師協会は、23年第2四半期(4~6月期)の「乳用牛への黒毛和種の交配状況について(速報)」を公表した(下表)。

黒毛和種の交配割合は、北陸・中四国・九州以外の5地域で減少した。

なお、性選別精液(乳用雌)の利用割合(全国平均)は21.7%と増加した。

地域	延べ人工授精頭数	黒毛和種授精数	黒毛和種の割合(%)	黒毛和種交配割合前期比(%)	黒毛和種交配割合前年同期比(%)
北海道	222,995	64,626	29.0	▲1.6	同率
東北	7,594	3,281	43.2	▲0.8	1.7
関東	14,250	7,881	55.3	▲3.5	▲0.3
東海	4,673	3,105	66.4	▲1.6	8.7
北陸	976	601	61.6	2.1	13.6
近畿	3,684	2,397	65.1	▲3.3	0.9
中四国	4,032	2,971	73.7	3.7	▲0.5
九州	4,876	3,392	69.6	0.2	3.8
都府県	40,085	23,628	56.7	▲2.1	2.7
全国	263,080	88,254	41.2	▲1.8	1.1

(一社)日本家畜人工授精師協会の資料から作成

# 乳牛が都会で牛乳アピール

## 土日ミルクフェス 2023 in豊洲

11月3日(文化の日)、東京都・豊洲公園とららぽーと豊洲において、Jミルク主催による「土日ミルクフェス2023」が開催された。給食のない休日にも牛乳を飲む習慣づくりのプロジェクトで、汗ばむ陽気の連休初日に大勢の家族連れで賑わった。

タレントのおいでやす小田、こがけん、3時のヒロイン(福田麻貴・かなで)らがオープニングを盛り上げた。

会場では、全国の牛乳やヨーグルトの無料飲み比べや、牛乳を使った料理(ミルク塩ラーメン、白いカレー)の試食コーナーで長い行列ができた。各

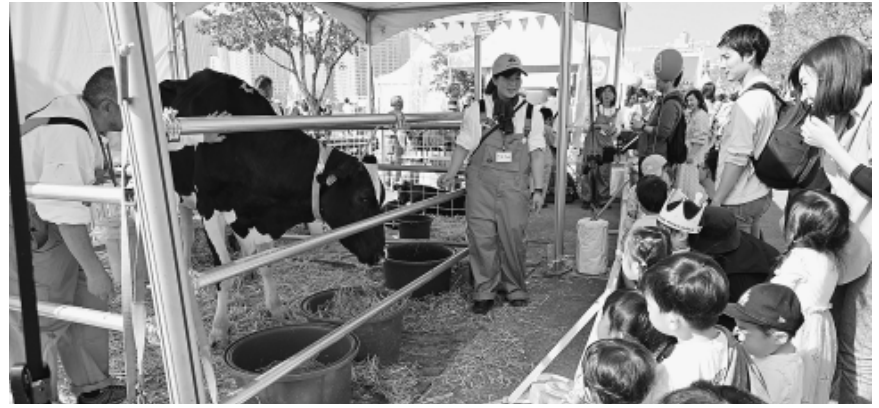
地の牛乳やチーズなどの販売ブースや、牛の模型での乳しぼり体験、牛乳の栄養などを学べるコーナーなど、盛りだくさんだった。

中でも、子どもたちが一番興味を持ったのが、初産の経産牛と子牛たちだった。千葉県八街市から、朝早く搾乳してから駆け付けた。ほとんどの子が牛を見るのが初めてで、目を大きくして観察していた。夕方には搾乳の実演も行われた。

ショッピングモールのららぽーと豊洲会場でも、乳しぼり体験ができ、全国の牛乳パックが展示されていた。



左:こがけん、おいでやす小田、福田麻貴、かなで  
上:牛乳飲み比べ、下:本物の牛に興味津々



### 牛枝肉

年末商戦に向け  
引き合いは徐々に強まるか

11月の中旬に入り、いきなり冬の寒さがやってきて、行楽の秋がなくなるのではないかと心配になる。

諸物価高騰による消費者の低価格志向は続いているが、年末商戦を迎え相場は上昇してきている。

【乳去勢】10月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、839円(前年同月比81%)となり、前月より93円上がった。11月に入り850円を上回る相場となってきた。消費者の低価格志向で乳用種の引き合いはやや強くなっている。

【F1去勢】10月の東京食肉市場の交雑種去勢税込み枝肉平均単価は、B3が1445円(同95%)、B2が1250円(同93%)だった。前月に比べ、B3は9

円下がり、B2は1円上昇した。11月に入ってからはB3で1500円を超える日が多くなってきた。

【和去勢】10月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2078円(同89%)、A3が1829円(同86%)だった。前月に比べ、A4が13円、A3は28円それぞれ上がった。11月中旬までは、A4で2200円台での推移となっている。

【輸入量】農畜産業振興機構は11月の輸入量を総量で3万5500t(同90%)と予測。内訳は、冷蔵品1万5200t(同86%)、冷凍品が2万300t(同93%)。冷蔵品、冷凍品ともに豪州産を除くほとんどの輸入先で減少し、前月とほぼ同量で推移すると予測した。

【出荷頭数】11月の出荷頭数は、和牛5万2800頭(同98%)、交雑種2万5000頭(同100%)、乳用種2万9400頭

(同96%)と、例年どおり年間で一番多い出荷頭数となる見込み。

出荷頭数は増えるが、輸入は伸びず、年末商戦に入り荷動きは活発となる。消費動向が気になるが、例年通りとはいかないまでも、年末に向け相場は上昇が見込まれる。

向こう1カ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が850~950円、F1去勢B4が1700~1800円、同B3が1450~1550円、同B2が1300~1400円、和牛去勢A4が2200~2300円、同A3が1900~2000円での推移か。

### 畜産物需給見通し

消費者の低価格志向は豚肉に追い風であったが、鶏肉へのシフトがこれまで以上に強くなってきたよう。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、11月は148万頭(前年同月比100%)で、前月と比べると、1万6000頭増の見込み。猛暑による頭数減も解消され、前年並みの

出荷頭数が見込まれる。

農畜産業振興機構の需給予測によると、11月の輸入量は総量で6万9500t(同79%)と、大幅に減少の見込み。内訳は、冷蔵品3万1300t(同74%)、冷凍品3万8200t(同84%)。

輸入量は減少しているが、出荷頭数が安定して引き合いは弱まっている。

向こう1カ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が500円絡み、中物も450~550円で推移か。

### 豚枝肉

出荷頭数が安定して、500円絡みで落ち着くか

10月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が558円(前年同月比91%)、中物は541円(同91%)となった。前月に比べ上物が137円、中物が131円とそれぞれ130円以上の急落となった。

11月に入ると、上物が500円台前半で推移しており、500円を割る日も出てきている。

### 素牛

#### スモール

和子牛価格の下落に歯止めが効かず今後も軟調

【スモール】10月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が4万5190円(前年同月比219%)、F1(雄雌含む)は6万9375円(同76%)となった。前月に比べ、乳雄は1万2452円上昇し、F1が3277円の続落となった。

交雑種は市場によりバラツキがあり、10万円超から5万円を切る(北海道に多い)市場に分かれている。

【乳素牛】10月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が

18万2540円(同148%)、F1去勢は3万1686円(同94%)だった。前月に比べ乳去勢は9533円下げ、F1去勢は1万2125円上昇した。

F1去勢は前月までの下げ基調からの反発と、品薄感があって上昇に転じたと見られる。

【和子牛】10月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、54万5409円(同84%)で、前月より8754円のマイナスとなった。

肉用子牛補給金が21年ぶりに黒毛和種に発動する。

前月ほどの急落ではないが、牛枝肉相場が低調で、肥育農家の素牛導入は依然としてブレーキがかかっている。今後も弱もちあいの推移か。

### 10月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	512	504	316	309	185,874	188,438	588	610
	F1去	2,241	2,130	339	339	331,785	318,220	979	939
	和去	2,462	2,492	334	336	607,475	602,949	1,819	1,794
東北	乳去	2	2	296	209	66,550	32,450	225	156
	F1去	4	2	296	271	125,125	148,500	423	548
	和去	2,398	2,454	321	314	563,140	569,095	1,756	1,813
関東	乳去	1	59	201	304	38,500	272,353	192	896
	F1去	161	164	345	357	331,148	328,652	959	921
	和去	995	749	314	322	558,147	600,352	1,775	1,864
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	89	63	294	309	607,089	562,275	2,065	1,820
東海	乳去	1	2	283	280	3,300	92,950	12	332
	F1去	41	65	333	324	305,639	301,011	918	930
	和去	213	480	269	285	588,381	572,532	2,185	2,011
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	172	426	258	273	847,032	795,927	3,277	2,919
中四国	乳去	15	25	312	300	122,320	108,108	392	360
	F1去	300	278	330	334	333,553	334,373	1,011	1,000
	和去	796	720	306	301	514,005	541,522	1,678	1,797
九州・沖縄	乳去	3	3	315	273	99,733	96,067	317	352
	F1去	299	422	342	336	335,695	316,706	982	942
	和去	8,887	10,775	299	299	517,332	526,689	1,728	1,761
全国	乳去	534	595	315	308	182,540	192,073	579	624
	F1去	3,046	3,061	338	339	331,686	319,561	981	943
	和去	16,012	18,159	308	306	545,409	554,163	1,771	1,811

注:(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。